

7 事後分析

研究内容1 児童生徒の思考に沿った単元デザインの工夫

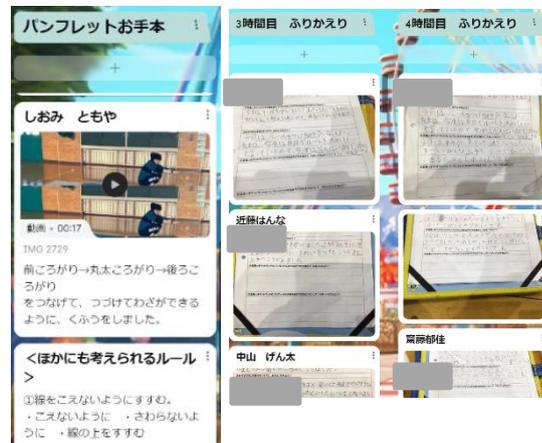
(1) 課題設定、見通し

○ 児童の「主体的・対話的で深い学び」を保障するために、どの単元でも単元のゴールイメージを明確に提示するなど、導入段階で学習の見通しをもたせることが大切であると考えた。

本単元「マットを使った運動遊び」では、「五条っ子マットランド」のパンフレットを作ることをご目標とした。本単元の学習の動機付けとなるよう、どのようなマット遊びコーナーを設置したらよいかを自分で考えられるようにした。そのような工夫により、児童が進んで「使えそうな技を知りたい」「友達が楽しめる遊びを考えてみたい」と、意欲的に学びに向かう姿が見られた。

また、本校の研究内容である「ゴールに向かって自ら学びを選び、舵取りできる児童」の実現を意識し、児童一人一人が学ぶ方法や取組を選べるような学習環境づくりに重点をおいた。学び方や活動の場を主体的に選べるような場づくりを工夫し、児童の「やりたい」という学びへの意欲を最大限に引き出すとともに、児童が安全に楽しく学びに向かい、小さな成長や児童の「できた」を認め、遊びの中から運動の感覚を養うことを意識した。

資料1 単元ゴールの見える化と振り返りの蓄積 (学級全体で共有)



(2) 自己決定、自己選択

資料2 技一覧表とお手本動画



○ マットランドで使える技を単元の導入段階で指導するとともに、朝の体力づくりや他単元のウォーミングアップなどの時間も活用して取り組ませたことで、児童が主体となり学習する時間を多く確保できた。

これまでの技で「やってみたい」「組み合わせてみたい」と児童が考え、与えられた場を選択して組み合わせたことで、一人一人が進んで活動に取り組むことができた。

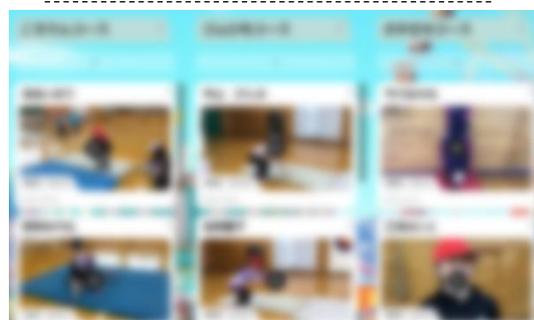
● 導入段階で、一通り児童へ技を知らせたり、場の使い方を伝えたりしたが、同じ場で活動している他の児童の「よさ」をそのまま模倣し、同じグループ内で似たものができてしまっていたところもあった。マットの枚数が限られていたこともあるが、マットの置き方や学び方、遊びの構成への声掛けなど、次年度に向けて、本単元の改善の余地があると感じた。

(3) 単元レベルの振り返り

○ 今回の学習を通じて、マットの学習への苦手意識が減り、楽しいと感じていた児童が多かった。次学年に向けての意欲や学んでみたいこと、今回の学習を通じてできた自信を表現している児童もいた。

● 児童の振り返りから、前転がりや後ろ転がりなど基本的な技を自分の課題として捉えず、あまり取り組めていない児童がいたことが分かった。遊びの中で、あらゆる回り方の感覚を養い、身に付けていけるよう単元を改善する必要性を感じた。

資料3 児童たちが撮影したマット遊び方の蓄積



研究内容2 児童生徒の深い学びを充実させる本時の工夫

(1) 発問

○ 「五条っ子マットランドのパフレットを作る」という単元のゴールを毎時間確認したため、前時の振り返りや本時の初めには、児童がやることを理解し、見通しをもって学習を進めることができた。教師から児童たちへの発問は極力少なくし、本時では、その時間に取り組むことや進捗状況の確認、児童間の交流を促す発言程度で児童たちが進んで学びを進めることができていた。

● 発問を端的にすることで、すぐ活動を理解し行動できる児童もいれば、見通しをもちづらい児童もいた。

今回は、教員が安全に配慮し、児童たちが最大限に場を選び、進んで活動できる場づくりを意識した。そのため活動場所が5カ所となり、それぞれの場の児童へ、適切な助言をすることが難しかった。そのため、残り時間を意識し余裕をもって次の活動に移れなかった児童もいた。

資料4 本時の板書計画

五条っ子マットランドのパフレットを作ろう！

五条っ子マットランドのパフレットにのせるあそび方を考えて、ためてみよう！

今日のながれ

場にあったあそび方をためてみる！（11分）

↓

あそびをこうりゅうする（6分）

↓

あそび方をよりよくなるように工夫してみる。（11分）

せつ明する方ほう

①バドレットにコメントで書く。
②どうがのさいしょにせつ明する。

せつ明すること

①あそぶときのポイント
②かんたんルール
※黄色テープからはみ出さないようにしよう。

(2) 必要感のある学び合い

○ 遊び方を考えるのに困っている友達がいたら、これまで知らせた技をタブレットで確認をするよう助言するなど、声を掛け合い考える姿が見られた。また、遊びを考えている段階から、自らの試技を確認できるよう、進んで友達の試技をタブレットで映している児童も見られた。児童たちが最善の学び方を考え、伝え合う姿が見られた。

● 同じグループ内での交流が多かったため、交流するときには、遊び方が偏っているところもあった。他のグループとも積極的に交流するよう促していたら、もっと多種多様な場ができたかと思う。



(3) 本時レベルでの振り返り

○ 本時での学びを理解し、学んだことや意識したことを具体的に書くことを徹底した。他者との関わりを書き記した児童もあり、協働的に活動した様子が把握できた。うまく活動できなかった児童は、次はどう改善するのか具体的に書くことで、次に向けて自分の課題を明確にできた。振り返りは学級全体で共有しているため、課題解決に向けて、友達の振り返りを学びのツールとすることができた。

● 早く書ける児童はより多くの友達の振り返りを参照することができるが、そうでない児童もあり、個々の振り返りの質や書き終わりに差が生じるため、振り返りを共有する時間の確保に苦慮した。

資料5 学んだことの振り返り

前回と同じようにともだちのまわってるところをあげました。前回よりもっとみんな上手だったので自分ももっとがんばりました。

①学ぼうのゴールを知り、ころがり方やささえ方をおぼえていこう！

今日はめがけジャンプを学びました。おき上がる時に足に力をいれて豆腐を上へやる時きれいに上がることをまねてみました。

②五条っ子マットランドの場を知り、いろいろなころがり方やささえ方であそんでみよう！

今日は川とびを学びました。ジャンプするときに足に力をいれて思いきりジャンプするとうまく川とびこえることができました。